

特集

長崎の教会群とキリスト教関連遺産

世界遺産へ

推薦決定!!

「産業革命遺産」に続き  
2年連続の推薦

1月16日、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産への推薦が決定し、1月22日に国からユネスコ（国連教育科学文化機関）へ推薦書（正式版）が提出されました。今後、ユネスコの諮問機関「イコモス」の現地調査が今年9月頃に行われ、平成28年夏頃に開催予定の世界遺産委員会で、世界遺産への登録について審議されます。

「長崎の教会群」は、日本におけるキリスト教の受け入れの過程を示す貴重な遺産です。今後も、市民や関係機関の皆さんと一丸となって資産の保全や活用に取り組み、平成28年の世界遺産登録を目指していきます。

世界遺産推進室 ☎829・1260

特集

市政

長崎市民

プレゼン  
ト

生活情報

健康

子育て

福祉・税

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

# 日本のキリスト教の歴史を

## 物語る市内の構成資産

### 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」とは？

キリスト教は約450年前に西洋から日本に伝えられ、「<sup>でんぱ</sup>伝播と普及」「禁教下の継承」「解禁後の復帰」と3つの歴史をたどりました。このことは世界でも類を見ない独自の出来事であり、その全ての歴史を物語っているのが「長崎の教会群」なのです。

#### 1. 伝わり広まる（伝播と普及）

1549年、フランシスコ・ザビエルが来日してキリスト教を伝えました。長崎港を開港したことで知られる大村純忠が日本で初めてのキリシタン大名となるなど、多くの人々にキリスト教が広まりました。

#### 2. 厳しく取り締まれるなか、ひそかに信仰が続けられる（禁教下の継承）

豊臣秀吉や徳川幕府がキリスト教を禁止し、キリシタンを取り締まりました。信者たちは独自の儀式や祈りの言葉（オラショ）を伝えるなどひそかに信仰を続けました。

#### 3. 再び自由に信仰される（解禁後の復帰）

明治時代になると、1873年に再びキリスト教の信仰が認められました。宣教師が各地に行き、信者たちとともに次々と教会を建てました。

「長崎の教会群」は、長崎県と熊本県の6市2町（長崎市、佐世保市、平戸市、五島市、南島原市、小値賀町、新上五島町、天草市）にある14の資産で構成されていて、長崎市には、「解禁後の復帰」の時代を語る次の3つの構成資産があります。

### 大浦天主堂と関連施設

大浦天主堂は、19世紀の開国後に再来日した外国人宣教師によって1864年に建てられました。

1865年、浦上の潜伏キリシタンが大浦天主堂を訪れ、プチジャン神父に信仰を告白しました。禁教下で約250年間信仰を守り続けたキリシタンと神父の運命的な出会いは「信徒発見」として世界中の人々をおどろかせました。

この場所は、明治時代以降、日本における再布教の拠点となりました。天主堂の近くには、旧長崎大司教館や、司祭育成の場だった旧羅典神学校などの施設も残っています。



大浦天主堂



旧羅典神学校



旧長崎大司教館



長崎の教会群を世界遺産へ



出津教会堂

## しつ 出津教会堂と関連施設

外海地域では厳しい取り締まりの下で、キリスト教の信仰がひそかに続けられてきました。

キリスト教の解禁後、ド・ロ神父の指導の下で、出津教会堂(1882年)や、貧しさに苦しむ地域住民を救うための授産施設である出津救助院(1883年)が建てられました。



教会が周囲の風景に溶け込んでいる出津の石積集落景観



旧出津救助院



大野教会堂

## 大野教会堂

1893年にド・ロ神父により、外海地域の太野地区周辺26戸の信者のため、出津教会堂の巡回教会として建てられました。

通称「ド・ロ壁」といわれる、日本の従来の技術と西洋の技術が融合した独特の石積の外壁が見られます。



# 知る、守る、伝える「長崎の教会群」

暮らしのなかで身近な存在である「長崎の教会群」。その価値に目を向け、輝かせるために取り組んでいる人たちがいます。長崎が育んできた「だから」を、皆さんとともに大切に守っていききたいですね。



## 地域の良さを再発見

### 大浦小学校6年生の皆さん

大浦小学校の校区内には、「長崎の教会群」の構成資産である「大浦天主堂と関連施設」のほか、もう一つの世界遺産候補である「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産である「旧グラバー住宅」、中国との関わりを示す孔子廟や旧香港上海銀行長崎支店といった、長崎の歴史を物語るさまざまな文化財があります。

大浦小学校では、「大浦を愛し人とながり地域とつながる」をキーワードに、地域の歴史や文化から、長崎らしさを学ぶ取り組みを行っています。

6年生は、グラバー園やオランダ坂などそれぞれの場所の説明資料を自分たちで調べて作成しました。そして、「大浦キッズさるくガイド」として、実際

に、各地から大浦地区を訪れた観光客の方々に説明を行いました。

大浦天主堂について学んできたキッズさるくガイドの皆さんに話をお聞きしました。

◎キッズさるくガイドとして、観光客を案内した感想は？

- ・観光客に声をかけるのは緊張したけれども、楽しかったです。
- ・説明がうまくできなかったのに喜んでくれてうれしかったです。
- ・大浦天主堂についてこれまで学んできたことを伝えることができてよかったです。

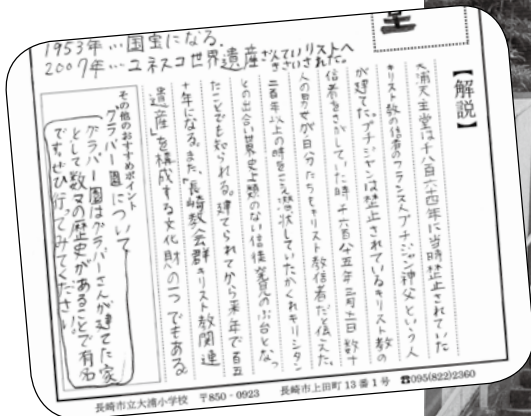
◎大浦天主堂が世界遺産に推薦されたことへの感想は？

- ・私たちの身近にある大浦天主堂が推薦されてうれしいです。
- ・今までよりも大切にしたいな、と思いました。
- ・世界遺産候補に決定したことで、長崎のことがもっと好きになりました。

キッズさるくガイドの活動について元気に答えてくれた大浦小の皆さん。今後も、地域にあるものを大切にしていきたいですね。

手作りの大浦天主堂の説明資料とともに

大浦天主堂の歴史や大浦地区のその他のオススメポイントなどを分かりやすく説明しています。





## 地域の歴史を

知ってもらいたい

高橋 渉<sup>わたる</sup>さん

(出津教会堂教会守)

昨年3月から、出津教会堂の「教会守(きょうかいもり)」として、教会でのマナー、教会・外海地域の歴史などを来訪者に説明している高橋さんに話をお聞きしました。

◎長崎の教会群が世界遺産に推薦されたことへの感想はいかがですか？

「長崎の教会群」が「世界のたから」として価値あるものと認められることは、うれしいです。

出津教会堂は、ド・ロ神父が外海の人たちとともに作った教会です。外海地域では、禁教下でキリスト教の信仰を守ってきた歴史、安住の地を求めて多くの人々が五島などへ移住した歴史、禁教が解かれた後に信仰が復活した歴史を見ることが出来ます。また、ここでは、火

## 「長崎のたから」を「世界のたから」に

「長崎の教会群」は、昨年世界遺産に推薦された「産業革命遺産」と同じく、長崎が昔から世界とつながってきたまちであることを示す貴重な遺産です。

世界遺産に登録されることは、その遺産が「人類が共有すべき普遍的な価値があるもの」として認められることであり、長崎にとって誇りとなります。

まずは、多くの市民の皆さんに、「長崎のたから」、「世界のたから」である「長崎の教会群」を実際に見ていただき、長崎と世界とのつながりや地域に根ざした営みを感じていただきたいと思います。

そして、このたからを後世に引き継いでいけるようみんなで大切に守っていくとともに、市民の皆さんとともに「長崎の教会群」の価値を国内外に広く伝えることで、多くの人々が長崎を訪れるきっかけにしていきたいと考えています。

「長崎の教会群」の世界遺産登録実現に向けて、引き続き皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◎来訪者の受け入れに向けて

祈りの場としての位置づけを基本と

◎教会のマナーで心がけることは？

来訪されるかたには、あまり形式にとらわれず、思い思いのやり方で祈ってもらって結構です。

ほとんどのかたは問題ありませんが、なかには、祈りの場である教会内で、大声で話したり写真撮影をしたりするかたもいるので、配慮してもらえればと思います。

曜日を除き毎日朝6時から信者が集まりミサが行われたり、信者たちが毎週教会周辺を清掃したりするなど、教会が人々の暮らしに溶け込んでいます。

地域の皆さんとともに、教会の歴史や、教会とともにある景観や暮らしを、これからも大切にしていきたいと思えます。



出津教会堂を訪れるかたも徐々に増えています

しながらも、多くのかたに来訪してもらい、外海・出津の地域の歴史を知ってもらいたいと思っています。

来訪されたかたに、また訪れたいと思ってもらえるよう、気持ちよくお迎えしたいです。

長崎の教会群について詳しく知りたいかたへ

## 長崎歴史文化博物館特別展 聖母が見守った奇跡 ～長崎の教会群とキリスト教関連遺産～

東京国立博物館が所蔵する旧長崎奉行所宗門蔵に保管されていた潜伏キリシタン関係資料約200点や、五島・平戸・外海などの資料を通して、長崎におけるキリスト教との関わりを紹介します。

【期間】 4月15日(水)まで  
※3月12日(木)は特別展のみお休み  
【時間】 午前8時30分～午後7時  
【料金】 大人800円 高校生以下無料



真鍮踏絵  
キリスト像



マリア観音

東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives